

平成27年度

事業報告

平成27年4月1日から

平成28年3月31日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、平成 27 年度の事業を実施した。

『「他者と共に生きる喜び」のための祈りと行動』の総合テーマのもと、①宗教者としての東日本大震災の復興に向けた支援を継続する、②原子力エネルギーと現代文明のあり方、および現代社会において人間としてあるべき生き方について、宗教者として問いつける、③東アジアと中東地域の宗教者との交流をさらに深める、④ACRP（アジア宗教者平和会議）と連携し、仁川宣言に基づき従来からの平和活動をさらに発展させ、実践する、の4つを特に重点的に取り組むサブテーマに据えて事業を推進した。

平成 27 年は第 2 次世界大戦の終結から 70 年の節目を迎える年であった。そこで、これまでの 70 年を振り返りつつ、過去の反省に基づき二度と戦争を繰り返さない世界を創り出すべく、現実に行き始めている暴力、紛争、戦闘行為などを終息させるために、宗教者として共に取り得る行動とは何かを考え、平和への歩みを強化することに努めた。

また、平成 27 年は東日本大震災から 5 年、核不拡散防止条約（NPT）再検討会議の開催や国連ミレニアム開発目標の達成年という年でもあった。同時に、国内外の情勢をみると、人権問題や差別、対立、緊張関係は予断を許さない状況にある。こうした状況に対し、WCRP 日本委員会では4つの特別事業部門（タスクフォース）、①東日本大震災復興事業、②核兵器廃絶・軍縮、③国連ミレニアム開発目標（MDGs）、④平和教育による事業をはじめ、「平和のための宗教者研究集会」や「平和大学講座」をはじめとする学習会を通して、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

I. 事業部門

A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

事業の趣旨(目的)

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

(1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンズー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

平成27年度の事業は以下の通り。

①ムスリムと日本の宗教者との対話プログラム

期 日：平成27年4月9日～10日

開催地：グランドハイアット東京（東京都港区）

概 要：

WCRP 日本委員会と世界イスラーム連盟 (MWL) の共催、日本ムスリム協会の協力のもと、『ムスリムと日本の宗教者との対話—平和のための共通のヴィジョンを求めて—』をテーマに開催された。MWL に加盟するパキスタン、マレーシア、韓国、チャイニーズ・タイペイ、インドネシアのイスラーム指導者、日本のイスラーム、キリスト教、仏教、神道などの指導者、学者約300人が参加した。

会議では、「宗教と平和」「宗教の違いと憎しみの文化」「宗教の価値と共通の課題」「今後の計画」の4つのセッションがもたれ、各セッションの基調発題や質疑応答で出された課題、提案は共同声明にまとめられた。日本プレスセンターにおいて、会議開催前に記者懇談会を開催し、また会議終了直後には記者会見を開催した。

各セッションの概要は以下の通り。

開会セッション

議長：徳増公明 (WCRP 日本委員会特別会員、日本ムスリム協会会長)

クルアーン読誦：サイード佐藤裕一 (日本ムスリム協会理事)

岸田文雄外務大臣からのメッセージ代読：岩井文男 (外務省中東アフリカ局審議官)

基調発題

- ・庭野日鏡 (WCRP 日本委員会会長、立正佼成会会長)
- ・アブドゥラー・ビン・アブドルムハセン・アルトルキー
(世界イスラーム連盟事務総長、サウジアラビア)

セッション I 「宗教と平和」

議長： 藪田 稔 (WCRP 日本委員会理事、京都大学名誉教授、秩父神社宮司)

共同議長： サミール・アブドルハミード・ヌーハ

(同志社大学一神教学際研究センター副センター長)

発題者：

- ・アニス・アハマド (リパ国際大学副総長、パキスタン)
- ・ソーヒーリーン・ムハンマド・サーリヒーン
(インターナショナル・イスラミック大学教授、マレーシア)
- ・杉谷義純 (WCRP 日本委員会理事長、天台宗宗機顧問)
- ・黒住宗道 (WCRP 日本委員会理事、黒住教副教主)
- ・樋口美作 (WCRP 日本委員会監事、日本ムスリム協会理事)

セッション II 「宗教の違いと憎しみの文化」

議長： 眞田芳憲 (WCRP 日本委員会平和研究所所長、中央大学名誉教授)

共同議長： アニス・アハマド

発題者：

- ・塩尻和子 (東京国際大学特命教授：国際交流研究所所長、筑波大学名誉教授)
- ・板垣雄三 (東京大学名誉教授)
- ・サミール・アブドルハミード・ヌーハ
- ・小原克博 (同志社大学神学部神学研究科教授)
- ・イブラヒーム・イドリース・ジャオ
(世界イスラーム連盟評議員、チャイニーズ・タイペイ)

セッション III 「宗教の価値と共通の課題」

議長： 川端健之 (WCRP 日本委員会理事、立正佼成会理事長)

共同議長： ソーヒーリーン・ムハンマド・サーリヒーン

発題者：

- ・イサム・アマーナッラー・ブカーリ (在日サウジアラビア王国大使館文化部長)
- ・ディン・シャムスディーン (ムハマディヤ会長、インドネシア)
- ・山本俊正 (WCRP 日本委員会特別会員、関西学院大学教授)
- ・森 伸生 (拓殖大学イスラーム研究所所長)
- ・佐藤正宏 (明治神宮国際神道文化研究所所長)
- ・戸松義晴 (浄土宗心光院住職、浄土宗総合研究所主任研究員)

セッション IV 「今後の計画」

議長： 杉野恭一 (WCRP 国際委員会副事務総長)

発題者：

- ・アブドッラフマーン・リー（韓国ムスリム連盟イマーム、韓国）
- ・國富敬二（WCRP 日本委員会事務局長）
- ・大西英玄（WCRP 日本委員会活動委員、音羽山清水寺執事補）
- ・アネカント・クマール・ジャイン
(ディームド大学ジャイナ哲学部教授、インド)

閉会セッション

議長：ディン・シャムスディーン

声明文案読み上げ：徳増公明

声明文採択

閉会挨拶

- ・杉谷義純
- ・アブドゥラー・ビン・アブドルムハセン・アルトルキー

内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

②ACRP 執行委員会

期 日：平成 27 年 6 月 3 日～4 日

開催地：インドネシア、ジャカルタ・バンドン

概 要：

アジア 16 カ国から約 60 人が参加。人事について、日本委員会の黒住宗道理事（黒住教副教主、ACRP 管理委員）が財務委員、川端健之理事（立正佼成会理事長、ACRP 管理委員）が監事に選任された。また、事務局体制や財務報告、2015 年度予算などが審議され、承認された。ネパール地震の緊急支援については、国際委員会、ACRP、ネパール委員会の共同プロジェクトを実施することが合意された。会議に合せて、3 日にはバンドン国際会議場で国際セミナー「宗教の名による暴力的過激主義を乗り越えるためのアジアの諸宗教によるアクション」が開催され、国際委員会の杉野恭一副事務総長や各国委員会の代表者がパネリストとして自国での取り組みなどについて語った。

③WCRP 国際・各地域・各国委員会代表者会議

期 日：平成 27 年 7 月 24 日～26 日

開催地：ボスニアヘルツェゴビナ、サラエボ市内

概 要：

「成功事例の振り返りと諸宗教による活動の拡充にむけて」をテーマとした会議が開催され、アフリカ、ヨーロッパ、アジアの各地域の事務総長、90 カ国以上にある各国委員会の内、代表約 30 カ国の事務総長が参加した。特別参加者として、米国国際開発庁 (USAID) 担当官、GHR 財団アンドレア・ヒップル上級シニアアドバイザーも参加。日本からは畠山友利 ACRP 事務総長、國富敬二日本委員会事務局長、和田恵久巳同総務部長が出席した。

④韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジア平和共同体構築のための課題と実践」をテーマとするセミナーが開催された。概要は、下記「3. セミナー・

スタディーツアー」の通り。

(2) 東日本大震災復興事業

平成23年3月13日、被災地支援のための「WCRP 東日本大震災緊急勧募」を開始し、7月には、復興支援のための特別事業部門（タスクフォース）を立ち上げた。同年12月には、宮城県仙台市に担当デスクを置き、スタッフを派遣し、少なくとも5年間復興支援を実施することを決定した。（仙台での支援活動は平成28年3月31日に終了）

復興への取り組みの方針として、①「失われたいのち」への追悼と鎮魂、②「今を生きるいのち」への連帯、③「これからのいのち」への責任の3つの方針として掲げ、平成27年度も継続して、現地の宗教者やNPO等の支援団体と連携し復興事業を実施した。また、被災地域の厳しい状況に鑑み、復興支援をさらに3年間継続することを決定した。

なお、平成27年3月～5月並びに平成28年3月～5月の期間、「『東日本大震災をけっして忘れない』ための祈りと行動」をテーマに、「WCRP 震災復興キャンペーン」を実施し、復興支援募金、鎮魂並びに復興合同祈願式等を実施した。

平成27年度の主な事業は以下の通り。

①復興に向けた宗教者円卓会議の開催

期 日：平成27年5月19日～20日

会 場：国連大学エリザベス・ローズ国際会議場（東京都渋谷区）

概 要：

被災地の方々や支援活動をしている関係者の意見を傾聴し、今後の宗教者の支援活動のあり方に反映することを目的に開催。WCRP 日本委員会関係者や被災地で支援活動に取り組む宗教者、学者、市民団体の代表者など約100人が参加した。各セッションのテーマと発題者は以下の通り。

セッション1 「5年目を迎えた被災地の現状」

田村太郎（復興庁復興推進参与）

小野寺明美（本吉絆つながりたい：障がい児への取り組み：宮城県）

志田篤（NPO 法人昭和横丁代表理事、川内村南仮設自治会代表：福島県）

臼澤良一（遠野まごころネット理事長：岩手県）

セッション2 「被災地における宗教者の役割・意義」

鈴木岩弓（東北大学大学院文学研究科教授）

高橋悦堂（宮城県普門寺副住職）

嶋村喜久（浄土宗災害復興事務局課長補佐）

篠原祥哲（WCRP 日本委員会仙台事務所所長）

セッション3 「災害における宗教者の可能性」

松田博英（河北新報社報道部副部長、震災取材班統括キャップ）

稲場圭信（大阪大学大学院人間科学研究科准教授）

セッション4 「福島県におけるコミュニティづくりの取り組みの課題」

鴻崎太郎（県北ふたば会会長）

千葉由美（ママ cafe かもみーる、TEAM ママベク子どもの環境守り隊）
石川和宏（Café de FUKUSHIMA）
江川和弥（福島子どもが自然と遊ぶ楽校ネット事務局長、寺子屋方丈舎理事長）
内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

②フクシマコミュニティづくり支援プロジェクト

東京電力原子力発電所の事故による避難者、放射能飛散地域の住民への支援として、福島県内外の避難者・地域住民による活動に対する財的支援を1団体20万円以内で行った。平成27年度は4期で65団体に支援を行った。

第1期	平成27年5月4日～6月22日	審査会	7月6日（20団体へ支援）
第2期	平成27年8月3日～9月11日	審査会	9月16日（14団体へ支援）
第3期	平成27年11月2日～12月11日	審査会	12月16日（9団体へ支援）
第4期	平成28年1月18日～2月29日	審査会	3月16日（22団体へ支援）

③フクシマコミュニティづくりプロジェクトの集い

期 日：平成27年11月10日

場 所：ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）

概 要：

福島県の現状や避難先の状況を学び、復興に取り組む団体同士の連携を深めることを目的に開催。フクシマコミュニティづくり支援プロジェクト支援団体の代表者（当時59団体中31団体）、福島の支援関係者、WCRP日本委員会関係者など約100人が参加した。「避難地域における住民同士の支え合い」「離れて暮らす家族への助け合い・寄り添い」「放射能問題との向き合い」「祭り・芸能による心の繋がり」のテーマに沿って各団体から活動報告があり、続いてテーマ別の情報交換会を行った。最後のセッションでは、情報交換会の報告があり、それをうけて全体でのディスカッションが行われた。

④追悼と復興のための祈り

平成27年並びに平成28年の3月11日～21日の11日間、14:46に1分間の黙とうを捧げた。

平成28年3月16日には、相馬市慰霊碑（福島県相馬市）において「東日本大震災の追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願式」を実施。WCRP日本委員会関係者や現地の宗教者ら約60人が参加した。式典では市内の犠牲者の名前が刻まれた慰霊碑に向かって9宗教・団体の代表がそれぞれの祈りを捧げ、14:46には参加者全員で黙祷した。また式典に先立ち、相馬市役所職員の案内で沿岸部を巡り、復興の現場を視察した。

⑤実践宗教学寄附講座

平成24年に東北大学大学院文学研究科で開始された講座。各宗教の死に対する考え方、宗教者が人々の悲しみや苦しみに取り組む上でのグリーフケア、緩和ケア、カウンセリングなどの手法を学ぶことを目的としている。これまでに120人を超える宗教者が受講し、受講者は地域での活動や医療現場において学びを活かしている。また、同講座の動きは国内のさまざまな大学にも広がりを見せ、大学間における連携のネット

ワークが生まれてきている。WCRP 日本委員会は、同講座の運営委員として関わっている。

⑥三陸海の盆

NPO 法人遠野まごころネットと連携し、8月11日に宮城県気仙沼市で開催された第5回三陸海の盆を支援した。三陸海の盆は「心の復興」を目指し、三陸各地で活動する郷土芸能団体が一堂に会して犠牲者の御霊を追悼、三陸沿岸の早期復興を祈願するとともに、郷土芸能の継承を目的として平成23年から開催されている。今回は気仙沼地方振興事務所所長ら地元関係者も企画、運営を行い、当日は2,000人近くの地元住民が参加した。

⑦宗教・文化復興支援プロジェクト

被災地の宗教施設の復旧や伝統芸能の復活を目的に地元の行政・団体と合同で行っている。平成27年度は福島県相馬市北原釜地区の高塚貝殻地蔵尊の修復事業に取り組んだ。

⑧被災地の人材育成プロジェクト

宮城県の「せんだい・みやぎNPOセンター」と共に震災後のコミュニティ活動を支える人材育成プロジェクト「フラスコイノベーションスクール」を実施した。これまでに100人以上が参加し、コミュニティづくりのノウハウや組織運営、資金調達などについて学んだ。

⑨福島子ども支援

平成25年に福島県の子ども支援に取り組む団体のネットワーク「子どもが自然を遊ぶ楽校ネット」の設立に関わって以来、同団体と共に福島県の子どもの保養プログラムを実施している。また、同組織を構成する団体の基盤強化にも取り組んだ。

⑩社会的弱者の支援

障がいを持つ方々の場づくりに取り組む「本吉絆つながりたい」のメンバーのケア・施設管理に関する研修参加支援、「ふくしまをリハビリで元気にする会」による子どものための「遊びの会」への支援を行った。

⑪東日本大震災復興タスクフォースの会合を4回開催し、事業についての協議を行った。

2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

(1) 原爆投下70年シンポジウム（平和のための宗教者研究集会の位置づけで実施）

期 日：平成27年8月6日

会 場：ANAクラウンプラザホテル広島（広島県広島市）

概要：

WCRP 日本委員会、イタリアの聖エジディオ共同体、世界連邦日本宗教委員会の主催による原爆投下70年シンポジウム「二度と戦争を起こさない～核兵器廃絶をめざして～」を開催。これに宗教者、識者、政治家、市民など約250人が参加した。また、同シンポジウムを広島市、広島県宗教連盟、駐日イタリア大使館が後援した。

開会挨拶： 田中恆清（世界連邦日本宗教委員会会長、神社本庁総長）

歓迎挨拶： 松井一實（広島市長）

挨拶： ジョセフ・チェノットゥ駐日バチカン大使

挨拶： ドメニコ・ジョルジ（駐日イタリア大使）

発題者： 杉谷義純（WCRP 日本委員会理事長、天台宗宗機顧問）

アルベルト・クワトルッチ（聖エジディオ共同体事務局長）

被爆者証言： 久保田訓章（広島東照宮宮司）

セッション1 「核兵器廃絶の課題」

コーディネーター： 庭野光代（WCRP 日本委員会理事・立正佼成会次代会長）

発題者： ウラジミール・ガルカベンコ

（核戦争防止国際医師会議=IPPNW 共同会長）

コメント：

三鍋裕（WCRP 日本委員会核兵器廃絶・軍縮タスクフォース運営委員、
日本聖公会横浜教区主教）

ファイサル・ビン・アブドルラハマーン・ビン・ムアンマル（アブドゥラー国王
宗教・文化間対話のための国際センター=KAICIID 事務総長）

セッション2 「今後の核兵器廃絶への行動」

コーディネーター： 杉野恭一（WCRP 国際委員会副事務総長）

発題者： サン・チャン（世界教会協議会=WCC 議長、韓国長老派教会）

コメント：

黒住宗道（黒住教副教主）

アレン・ウェア（核軍縮・不拡散議員連盟=PNND

グローバルコーディネーター）

閉会「世界平和構築のための宗教の貢献」

挨拶： アゴスティーノ・ジョバニョーリ（聖エジディオ共同体アジア局長）

松下日肆（WCRP 日本委員会核兵器廃絶・軍縮タスクフォース責任者、
本門法華宗大本山妙蓮寺貫首）

内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

(2) 平和大学講座

期 日：平成28年3月8日

場 所：生田神社会館（兵庫県神戸市）

概要：

「難民問題～宗教者に求められるものとは～」をテーマに開催し、WCRP 日本委員

会関係者、市民など約 80 人が参加した。

開会挨拶：杉谷義純（WCRP 日本委員会理事長・天台宗宗機顧問）

基調発題：小尾尚子（国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所副代表）

難民の方々の声 2名

パネルディスカッション

コーディネーター：

眞田芳憲（WCRP 日本委員会平和研究所所長、中央大学名誉教授）

パネリスト：

深水正勝（WCRP 日本委員会理事、カトリック東京大司教区神父）

石川えり（認定 NPO 法人 難民支援協会代表理事）

熊岡路矢（日本国際ボランティアセンター（JVC）顧問）

質疑応答

閉会挨拶：藺田 稔（WCRP 日本委員会理事・平和研究所所員、秩父神社宮司）

内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

（3）新春学習会

期 日：平成 28 年 1 月 27 日

場 所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

概 要：

「対立から和解へ―戦後の歩みをふまえて―」をテーマに開催し、WCRP 日本委員会役員、関係者など約 120 人が参加した。

開会挨拶：杉谷義純 WCRP 日本委員会理事長、天台宗宗機顧問

趣旨説明：山崎龍明（平和教育タスクフォース責任者、武蔵野大学名誉教授）

基調発題：井上孝代（明治学院大学名誉教授）

パネルディスカッション 『和解に向けた宗教者の役割』

コーディネーター：

山本俊正（平和教育タスクフォース運営委員、関西学院大学教授）

パネリスト：

井上孝代

松井ケティ（平和教育タスクフォースメンバー、清泉女子大学教授）

坪内教至（WCRP 日本委員会青年部会事務局長、

立正佼成会青年ネットワークグループ主任）

質疑応答

閉会挨拶：植松誠（WCRP 日本委員会理事、日本聖公会首座主教）

内容は、機関誌「WCRP」2月号に掲載。

3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

期 日：平成 27 年 11 月 21 日～23 日

場 所：韓国・ソウル市内ホテル

概 要：

2009 年から「東北アジアにおける平和共同体構築のための共通基盤を求めて」を基本テーマに行われているセミナー。平成 27 年度は「東アジア平和共同体構築の障害となっている課題をいかに乗り越えるのか」をテーマに開催し、日本・中国・韓国の宗教者、学者、市民団体の代表など約 30 人が参加した。

開会セッション

歓迎挨拶：キム・ヨンジュ (KCRP (韓国宗教人平和会議) 共同会長)

基調講演：パク・クァンス (圓光大学宗教問題研究所所長)

第 1 セッション「平和的な朝鮮半島の統一に向けて

——韓国・中国・日本の宗教者の協力——」

モデレーター：松井ケティ (WCRP 日本委員会平和研究所所員、清泉女子大学教授)

発 題：キム・チャンス (コリア研究院院長)

応 答：山本俊正 (WCRP 日本委員会特別会員、関西学院大学教授)

マー・ユーシャン (CCRP (中国宗教者和平委員会) 副総長)

シン・イクサン (韓国 聖公会大学神学研究院)

第 2 セッション「東アジア平和共同体構築のための宗教者の役割」

発 題：チャン・ジンタオ (中国道教連合会副会長)

応 答：藺田 稔 (WCRP 日本委員会理事、京都大学名誉教授)

パク・ヒョンド (明知大学中東問題研究所)

第 3 セッション「ヘイトスピーチをめぐる課題と宗教者の役割」

発 題：眞田芳憲 (WCRP 日本委員会平和研究所所長、中央大学名誉教授)

応 答：中野重哉 (WCRP 日本委員会理事、愛知学院理事長)

パク・チャンヒョン (韓国 監理神学大学)

チョウ・トクサン (圓仏教教務)

ACRP 特別セッション

モデレーター：神谷昌道 (ACRP 事務総長シニアアドバイザー)

発 題：畠山友利 (ACRP 事務総長)

パネリスト：國富敬二 (WCRP 日本委員会事務局長)

キム・クワンジン (KCRP 事務総長)

マー・ユーシャン (CCRP 副総長)

内容は、機関誌「WCRP」1月号に掲載。

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

①PNND との核兵器廃絶・軍縮合同会合

4月21日、参議院議員会館（東京都千代田区）で核兵器・不拡散議員連盟（PNND）日本とWCRP日本委員会との合同軍縮会合が開かれ、衆参両院の議員、WCRP日本委員会役員ら約30人が参加した。会合では、5月に国連で開催される会議に提出する「PNND日本ならびにWCRP日本委員会による核兵器廃絶に向けての共同提言文案」について討議を行った。

②核不拡散条約（NPT）再検討会議への参画

4月27日からニューヨークの国連本部で開催されたNPT再検討会議にWCRP日本委員会から杉谷義純理事長（WCRP国際軍縮・安全保障常設委員会委員長）、核兵器廃絶・軍縮タスクフォースの河田尚子女性部会事務局長（アル・アマーナ代表）、大西英玄青年部会幹事（音羽山清水寺執事補）、國富敬二事務局長、ACRPから畠山友利事務総長、神谷昌道事務総長シニアアドバイザーらが参加した。

NPT再検討会議のほか、岡村善文国連次席大使、日本政府国連代表部・外務省軍備管理軍縮課の野口泰課長と面会した。また、WCRP国際委員会とPNNDによる「核軍縮のための宗教指導者と議員間のパートナーシップの構築」特別会合へ参加。会合では、PNND日本の藤末健三議員が「核兵器廃絶に向けての共同宣言文」を発表した。

③核兵器廃絶に向けた科学者と宗教者との対話集会

期 日：平成27年11月6日

会 場：長崎カトリックセンター（長崎県長崎市）

概 要：

長崎県宗教者懇話会と共催で、「核兵器廃絶に向けた科学者と宗教者との対話集会」を開催し、科学者、宗教者、市民ら約120人が参加した。これは、核兵器と戦争の廃絶を目指すために世界の科学者が集ったパグウォッシュ会議第61回世界大会（11月1日～5日、長崎市）を受けて行われたもので、同会議に参加した科学者と宗教者が核兵器廃絶の歩みをより明確にするために意見を交換し、共に協力していくことを確認し合った。

開会挨拶：野下千年（長崎県宗教者懇話会会長、カトリック長崎大司教区司祭）

歓迎メッセージ：田上富久（長崎市長）

（長崎市原爆被爆対策部平和推進課課長 大久保一哉 代読）

被爆者証言：中島正徳（長崎県被爆者手帳友愛会会長）

「核兵器なき世界に向けて—科学者と宗教者の責任」

基調発題：クリストファー・ワトソン（パグウォッシュ会議国際評議員、
オックスフォード大学名誉評議員）

杉谷義純（WCRP日本委員会理事長、天台宗宗機顧問）

パネルディスカッション「科学者と宗教者との対話」

コーディネーター：高原孝生（明治学院大学国際学部教授、同国際平和研究所所長）

パネリスト： ゲッツ・ノイネック（パグウォッシュ会議国際評議員、
ハンブルグ平和研究・安全保障政策研究所（IFSH）副所長）
杉野恭一（WCRP 国際副事務総長）
カレン・ホールバーグ（パグウォッシュ会議国際評議員、
バルセイロ大学院物理学部教授、国立科学技術評議会研究員）
三鍋裕（WCRP 日本委員会核兵器廃絶・軍縮タスクフォース、
日本聖公会横浜教区主教）
レベッカ・E・ジョンソン（アクロニム軍縮外交研究所所長）
楠達也（長崎県宗教者懇話会理事、浄土真宗本願寺派玄成寺住職）

フロア・ディスカッション

核兵器廃絶へのアピール： 神谷昌道（ACRP シニアアドバイザー）

閉会挨拶： 宮田文嗣（長崎県宗教者懇話会事務局長、諏訪神社禰宜）

松下日肆（WCRP 日本委員会核兵器廃絶・軍縮タスクフォース責任者、
本門法華宗大本山妙蓮寺貫首）

内容は、機関誌「会報」12月号に掲載。

④広島・長崎平和関連行事への参画

【広島】

平成 27 年 8 月 6 日早朝、広島戦災供養会主催、広島県宗教連盟奉仕による「原爆死没者慰霊行事」に、WCRP 日本委員会を代表して、松下日肆理事（本門法華宗大本山妙蓮寺貫首）、黒住宗道理事（黒住教副教主）らが参列した。その後、理事らは広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列した。

【長崎】

平成 27 年 8 月 7 日、長崎県宗教者懇話会の主催による平和交流会が、8 日には第 43 回原爆殉難者慰霊祭が行われ、WCRP 日本委員会から河田尚子女性部会事務局長（アル・アマーナ代表）らが参加した。また、8 月 9 日、原爆落下中心地で行われた長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列した。

⑤第 25 回国連軍縮会議への参加

平成 27 年 8 月 26 日～28 日、広島市で第 25 回国連軍縮会議が開催され、23 カ国から核軍縮に取り組む外交官や実務者、研究者、NGO 代表ら約 80 人が参加。WCRP 日本委員会から篠原祥哲平和推進部長が参加した。

⑥「2020 Vision」キャンペーン

2020 年までに核兵器廃絶を目指すために、平和首長会議が推進している同キャンペーンに対して、資金的な支援を実施した。

⑦核兵器廃絶・軍縮タスクフォースの会合を 5 回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 国連ミレニアム開発目標 (MDGs) 達成のための取り組み

① 「ポスト MDGs 学習会」の開催

10月23日普門館(東京都杉並区)で「ポスト MDGs 学習会～誰一人として置き去りにしない」を開催し、WCRP 日本委員会役員ら約 50 人が参加した。学習会は、「ポスト MDGs 時代における宗教者の役割」をテーマに国連開発計画 (UNDP) の近藤哲生駐日代表が講演し、質疑応答が行われた。

② 「MDGs ストリート・シアター・プロジェクト」

WCRP 日本委員会、WCRP 国際委員会、ミャンマー委員会の合同事業として、子どもの保健・衛生の促進、諸宗教の青年の間に信頼醸成を目的とした「MDGs ストリート・シアター・プロジェクト」を実施した。また、5月12日～15日、MDGs タスクフォースの田中法隆責任者(真生会会長)、石川清章運営委員(本門法華宗)が国際委員会の杉野恭一副事務総長らと共にミャンマーを訪れ、同プロジェクトの視察を行った。

③ 「action/2015 (アドボカシーフォトキャンペーン)」の呼びかけ

NGO のネットワークである「動く→動かす」が事務局を担う、市民の声を政府に届ける活動「action/2015」について役員を中心に参加の呼びかけを行った。

④ MDGs タスクフォースの会合を 5 回開催し、事業についての協議を行った。

(3) 平和教育への取り組み

① 平和教育の課題と展望に関する円卓会議Ⅱ

期 日：平成 27 年 6 月 12 日

場 所：清泉女子大学(東京都品川区)

概 要：

「家庭・社会における実践報告」をテーマに開催し、タスクフォース関係者ら約 30 人が参加した。各セッションの発題者は以下の通り。

セッション 1

二平祐子 (WCRP 日本委員会女性部会委員、東京家庭教育研究所所長)

佐藤カヨ (東京家庭教育研究所講師)

セッション 2

浜田桂子 (絵本作家・画家)

セッション 3

松井ケティ (平和教育タスクフォース、清泉女子大学教授)

高部優子 (平和教育映像会社経営)

内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

② 平和教育の課題と展望に関する円卓会議Ⅲ

期 日：平成 28 年 3 月 9 日

場 所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス 吉岡記念館(兵庫県西宮市)

概要：

「国境を越えた和解に向けての平和教育」をテーマに開催し、タスクフォース関係者ら約 20 人が参加した。各セッションの発題者は以下の通り。

セッション1

片野淳彦（東北アジア地域平和構築インスティテュート／NARPI 運営委員）

セッション2

神直子（NPO 法人ブリッジ・フォー・ピース代表理事）

セッション3

山本俊正（平和教育タスクフォース運営委員、関西学院大学教授）

内容は、機関誌「WCRP」5月号に掲載。

③学習会の開催

概要は、上記「2. 講座（3）新春学習会」の通り

④平和教育タスクフォース会合を5回開催し、平和教育に関する調査や事業案についての協議を行った。

5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。平成 27 年度は、以下に概要がある通り 8 回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約 800 部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約 400 部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

（1）研究会

①第1回研究会

期 日：平成 27 年 5 月 22 日

会 場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：眞田芳憲（WCRP 日本委員会平和研究所所長、中央大学名誉教授）

テーマ：「戦後 70 年に問われる国家の道義性

～千年百年ノ後ニ成就スルノ鴻基ヲ開クハ～」

②第2回研究会

期 日：平成 27 年 6 月 22 日

会 場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：黒田壽郎（WCRP 日本委員会平和研究所所員、国際大学名誉教授）

テーマ：「『滑らかな空間』の論理とその射程」

③第3回研究会

期 日：平成 27 年 7 月 10 日

会 場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：松井ケティ（WCRP 日本委員会平和研究所所員、清泉女子大学教授）
テーマ：「Forgiveness Theory：赦しの理論」

④第4回研究会

期 日：平成27年9月18日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：佐藤純一（WCRP 日本委員会平和研究所所員、国際メタテクニカテクノロジー研究センター所長）
テーマ：「東日本大震災被災地での汚染状況の調査について」

⑤第5回研究会

期 日：平成27年10月30日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：藪田稔（WCRP 日本委員会平和研究所所員、京都大学名誉教授、秩父神社宮司）
テーマ：「気候風土に宿る霊性文化」

⑥第6回研究会

期 日：平成27年11月19日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：J・P・ムケンゲシャイ・マタタ氏（元オリエンズ宗教研究所所長）
テーマ：「コンゴ民主共和国について」

⑦第7回研究会

期 日：平成28年2月4日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：竹村牧男（WCRP 日本委員会平和研究所所員、東洋大学学長）
テーマ：「仏教徒の生活指針について——仏教の戒律をめぐって」

⑧第8回研究会（合宿）

期 日：平成28年3月28日～29日
会 場：神奈川県足柄下郡
発表者・テーマ：
—西原廉太（WCRP 日本委員会平和研究所所員、立教大学副教授）
テーマ「現場の神学 日本の民衆とキリスト教の邂逅」
—ホアン・マシア（WCRP 日本委員会平和研究所所員、元上智大学教授）
テーマ「祝福と慈悲について 福音書（ルカ文書とヨハネ文書）をてがかりに」
—山崎龍明（WCRP 日本委員会平和研究所副所長、武蔵野大学名誉教授）
テーマ「伝統仏教教団の部落差別問題に学ぶ」

6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に

資するため、青少年を対象としたいのちに関する意識調査などを実施している。

(1) いのちに関する学習会

不特定多数の人々を対象として、啓発活動の一環として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会を以下の通り開催した。

期 日：平成 28 年 2 月 25 日～26 日

場 所：広島平和記念資料館、本川小学校など（広島県広島市）

参加者：10 人

概 要：

広島原爆投下から 70 年。被爆者の高齢化が進み、いかに原爆の惨禍を次世代に継承するかが課題となっていることを受けて広島を訪問した。学習会では、広島平和記念資料館で当時の状況についての説明、被爆体験伝承者の講話や爆心地近くの本川小学校訪問などを通して、原爆による悲劇を後世に語り継ぐことの重要性を学んだ。

(2) いのちの尊厳を学ぶ学習会

期 日：平成 27 年 7 月 25 日

場 所：ユニセフハウス（東京都港区）

概 要：

WCRP 日本委員会女性部会と日本ユニセフ協会の共催で、「すべての子どもと女性を守る～ユニセフの活動と女性部会が取り組む『いのちのアンケート』を受けて～」をテーマに学習会を開催。女性部会の委員、会員、ユニセフ関係者など約 70 人が参加した。

学習会では、日本ユニセフ協会の東郷良尚副会長が同協会の歴史や活動を紹介し、女性部会の森脇友紀子部会長が「いのちのアンケート」（平成 23 年から青年男女を対象に実施したいのちに関する意識調査）について説明した。続いて、同協会学校事業部アドバイザーの池田礼子氏が世界の子どもを取り巻く環境について講演した。

(3) 宗教別学習会

各宗教についての相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期日：平成 27 年 10 月 26 日～27 日

会 場：秩父神社（埼玉県秩父市）

参加者：11 人

概 要：秩父神社を参拝、見学。藪田稔宮司の講演。

(4) アドボカシー委員会

災害時に障がいをもつ方々や高齢者など特別なケアを必要とする方々への対応についての認識や理解を広め、自治体や宗教施設等、避難所になる可能性のあるところに事前の準備を促すことを目的として活動している。

平成 27 年 5 月 18 日、立正佼成会第二団参会館（東京都杉並区）で「災害時における避難所についての学習会」を開催し、女性部会委員、会員 22 人が参加した。学習会では、

障がい者の自立を目指して活動する「AJU 自立の家」の山田昭義専務理事と被災地域（岩手県）でコミュニティづくりを支援する「釜石支援センター望」の海老原祐治氏が発題し、その後、質疑応答が行われた。

また、10月5日～6日には現地学習会を実施。「釜石支援センター望」と宮城県で障がいをもつ子どものために活動する「放課後デイサービス『ほっぷ』」「本吉絆つながりたい」を訪問し、現状や課題について学んだ

平成28年2月8日、3月31日には「災害時に特別な配慮が必要な方への対応についての学習会」を開催した。2月8日は、東京都杉並区の保健福祉部管理課長の井上純良氏と危機管理室防災課防災計画担当係長の田村賢一氏を招いて、杉並区における地域防災計画と、災害時の要配慮者への対応について学んだ。3月31日は、大阪大学大学院人間科学研究科の稲場圭信教授から「宗教者の備え～災害対策と事前準備」をテーマとした講義を受け、その後、特に災害時の要配慮者への対応について質疑応答がなされた。

(5) 和解プログラムワークショップ

平成27年12月3日、普門館（東京都杉並区）で「親子におけるコミュニケーション法～互いを尊敬し、いい関係を創る方法」をテーマにワークショップを開催。松井ケティ委員（清泉女子大学教授）をコーディネーターに、女性部会委員、会員ら11人がさまざまなケースを想定したワークに参加し、相互理解を深め、和解に至る過程を学んだ。

7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るため、サマーキャンプや日本と韓国の青年の交流などのプログラムを実施している。

(1) サマーキャンプ2015

修行体験や講義を通して他の宗教に対する学びを深めるとともに、参加者の相互理解を深め、諸宗教と平和について学ぶため、以下の概要で実施した。

期 日：平成27年8月6日～8日
会 場：行者山太光寺（広島県広島市）
概 要：

「平和の灯をともしよう～Link with memories 8.6～」をテーマにサマーキャンプ2015を開催し、11教団から43人が参加した。

8月6日、参加者はWCRP日本委員会、聖エジディオ共同体、世界連邦日本宗教委員会が共催する原爆投下70年シンポジウム「二度と戦争を起こさない～核兵器廃絶をめざして～」に参加した。（概要は、上記2. 講座（1）の通り）7日は行者山太光寺で「平和の灯をともしよう～国際対話プログラム～」を開催。サマーキャンプ参加者や日本委員会関係者ら約400人が参加した。概要は以下の通り。

挨拶：坪内教至（青年部会事務局長・立正佼成会青年グループ）

青年部会の活動報告：村上泰教（青年部会幹事・石鎚山真言宗総本山極楽寺教学部長）

KAICIIDの紹介：

庭野光代 (WCRP 日本委員会理事・KAICIID 理事・立正佼成会次代会長)

基調発題「なぜ対話するのか?」: ピーター・カイザー (KAICIID 広報局長)

パネルディスカッション

コーディネーター: 村上泰教

パネリスト: ピーター・カイザー

庭野光代

石川清章 (青年部会幹事長・本門法華宗修徒)

質疑応答

まとめ: 國富敬二 (WCRP 日本委員会事務局長)

挨拶: 小林恵太 (青年部会副幹事長・カトリックアトンメントのフランシスコ会)

同日午後には、ヒロシマ宗教協力平和センターのガイドのもと、広島平和記念資料館や広島平和記念公園内にある碑をめぐり、原爆ドーム前で慰霊を行った。その後、太光寺で被爆体験伝承者である上田知子氏の講演で被爆者の体験を学んだ。8日は「平和の灯となるには?」をテーマにグループディスカッションを行い、最後に同寺の護摩堂にて平和祈願の護摩供を奉納した。

(2) 第12回日韓青年交流会

期 日: 平成28年1月29日～2月2日

会 場: 国際青少年センター (韓国ソウル市)、民族和解センター (坡州市)

概 要:

日本の6宗教・団体、韓国の7宗教からスタッフを含めて61人が参加。「東アジアの平和のための日韓宗教青年の役割」をテーマに、公園やフィールドワークでの対話を通じて平和について考えた。1月31日は、歴史や文化を学ぶために野外学習を実施。朝鮮民主主義人民共和国と韓国との軍事境界線付近にある臨津閣や朝鮮戦争の死没者を埋葬した敵軍墓などを訪れた。また、2月1日には民族和解センターで平和紛争研究所のジョン・ジュジン博士による講演とワークショップを行った。最終日には、日韓青年共同の約束文が発表された。

交流会に先立ち、1月29日は日本参加者のみで事前学習プログラムを実施。西大門刑務所歴史館を見学した後、慰霊式を執り行った。

(3) 沖縄現地学習会

平成27年6月22日～23日、沖縄県那覇市、糸満市、宜野湾市にて現地学習会を行った。8教団から14人が参加し、22日には幹事会を行った。「慰霊の日」である23日には、糸満市摩文仁の平和記念公園、ひめゆりの塔、宜野湾市の佐喜眞美術館を訪れ、沖縄戦の戦禍や悲惨さを学んだ。

(4) 国際宗教青年サミット、WCRP 国際青年委員会 (IYC) 会合への参加

平成27年11月26日～28日、フランスのパリ市で国際宗教青年サミットとIYC会合が開催され、35カ国から国際青年委員や各地域の青年代表ら約50人が参加した。日本からは、橋本高志事務局員が参加した。26日の開会セッションでは、コ・イグジスタ

一創設者のサミュエル・ボウスキ氏が挨拶。元 WCRP 国際共同会長のメレツィア・ラビディ・マイーザ師（チュニジア国会議員）が講演した。サミットでは「暴力的宗教的過激主義」「難民問題」「気候変動」の3つのセッションが行われ、議論が交わされた。27日はIYC会合のあと、パリの同時多発テロ事件の犠牲者を慰霊するレピュブリック広場に向かい、祈りと献花を行った。また、28日には宗教指導者ら約400人がサンドニ大聖堂に集い、諸宗教の祈りを捧げた。

(5) ACRP ユースキャンプへの参加

12月7日～9日、カンボジアのプノンペン市において、ACRPとACRPソウル平和教育センターの共催によるユースキャンプが開催された。テーマは「宗教の名を使った暴力的過激主義を乗り越えるための諸宗教青年たちによる行動とは何か」。ACRP加盟の13カ国から青年宗教者約50人が参加し、日本からは石川清章幹事長（本門法華宗）と藤田桂一郎幹事（立正佼成会）が参加した。7日の開会式では、ACRPソウル平和教育センターのスゴン・キム理事長やカンボジア委員会のテップ・ボーン会長（カンボジア仏教会総本山ウナロム寺院大僧正）らの挨拶、チョン・キョンイル博士（セギル基督社会文化院長）の講演が行われた。8日はキリング・フィールドを訪れ、慰霊を行った。また、最終日にはカンボジア諸宗教青年ネットワークが発足し、ユースキャンプの声明文が採択された。

8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

(1) マスコミ関係者との情報交換

①プレスリリース

平成27年度は、21のプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付した。

②記者懇談会・記者会見

1(1)①日本の宗教者とムスリムとの対話プログラムに際して、平成27年3月23日、日本プレスセンター（東京都千代田区）において、記者懇談会を開催した。約20人の記者が参加し、ムスリムとの対話について意見交換を行った。また4月10日には会議会場において記者会見を開催した。

2(1)原爆投下70年記念シンポジウムの事前に広島市役所において、記者懇談会を開催した。

(2) ホームページ

ホームページを通して、事業報告や告知を行った。随時更新するとともに、より分かりやすくなるようデザインを変更した。また、ホームページを通じて、広く一般に学習会等への参加を呼びかけ、その申し込みの受付を行い、市民からの問い合わせに対応した。

(3) 出版

①機関誌「WCRP」

毎月2,700部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連やNGO関係者並びにマスコミ関係者等、約2,000部を無料配布した。また、ホームペ

ージ等を通じて広報し、申込者に対し、年間購読料 1,000 円で送付した。

②平成 26 年度活動報告

平成 27 年 8 月に平成 26 年度活動報告を 2,500 部発行し、WCRP 日本委員会関係者・賛助会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に 2,000 部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③第 8 回 ACRP 大会報告書

平成 26 年 8 月に開催された第 8 回 ACRP 大会の報告書を平成 27 年 10 月に発行した。

④第 9 回世界宗教者平和会議決定事項

平成 25 年 11 月に開催された第 9 回 WCRP 世界大会の決定事項（報告書）を平成 28 年 3 月に発行した。

II. 法人運営部門

1. 法務に関する業務

- (1) 内閣府への報告等及び登記事務他
- (2) 法人に関する業務

2. 会議に関する業務

(1) 評議員会

①第 9 回評議員会

期日：平成 27 年 6 月 29 日
会場：金光教泉尾教会（大阪府大阪市）

②第 10 回評議員会（文書持ち回り）

期日：平成 27 年 9 月 1 日

③第 11 回評議員会

期日：平成 28 年 1 月 27 日
会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

(2) 理事会

①第 14 回理事会

期日：平成 27 年 6 月 11 日
会場：解脱会本部（東京都新宿区）

②第 15 回理事会

期日：平成 27 年 9 月 29 日
会場：浄土宗宗務庁（京都府京都市）

③第16回理事会

期日：平成28年1月27日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

④第17回理事会

期日：平成28年3月8日

会場：生田神社会館（兵庫県神戸市）

(3) その他諸会議の運営及び記録他

①総合企画委員会

6回開催

3. 監査に関する業務

平成27年6月6日に実施

4. 財務に関する業務

(1) 資産運用及び管理に関する業務

(2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

5. 文書管理に関する業務

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

6. 人事及び福利厚生に関する業務

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

7. 庶務に関する業務

①什器備品、印刷物、公印等の管理他

②その他の部門にも属さない事項の処理他

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上

平成28年5月27日

公益財団法人 世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会